



## 第2章 草津市のみどりの現況と課題

---

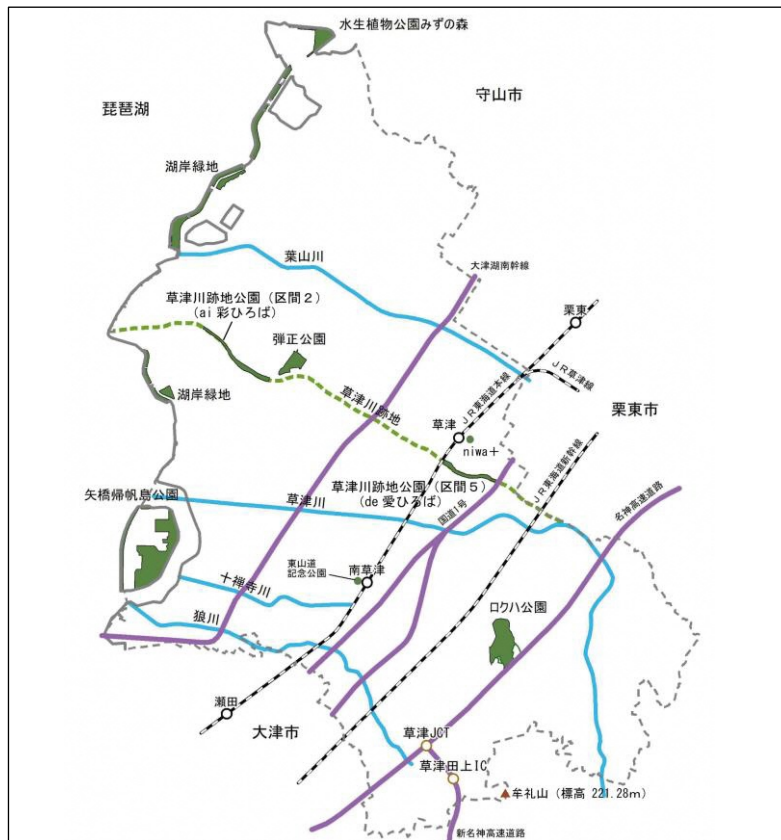
## 2-1. 草津市の概況

市域の東側には、湖南アルプスの裾野として続く丘陵地があり、田園と山林のみどりがあります。琵琶湖岸では、対岸の比良・比叡の山並みを遠望する大景観の広がりのもとで、ヨシ原を始めとする貴重な自然植生と生態系が保たれており、湖辺の平地部には、農地と点在する集落や社寺の森などが、良好な田園空間をつくっています。

JR草津駅・南草津駅周辺を核として市街地が広がり、旧東海道・中山道沿いには商店街が形成されています。また、市街地を流れる河川や大小の公園などが、市民の生活にうるおいをもたらしています。

「ガーデンシティくさつ」の活動を通じて、「健幸創造都市」の実現を目指すまちづくりをすすめています。

図6 草津市の概況



まとまった丘陵部の田園（山寺）



琵琶湖のコハクチョウ



旧穴村港とそれに続く水路



草津川跡地公園（区間5）  
（de 愛ひろば）



みずの森



葉山川河口から見返る近江富士

写真の出典：右側上から1段目～4段目 くさつ景観百選（写真タイトルは各写真に掲載の通り）

## 2-2. 草津市のみどりの現況

### (1) 緑被地の現況と変化状況

草津市の緑被地の状況は、図7に示すように、市域の西部、湖辺に豊かに広がる農地と、南東部の山手丘陵地に残された農地・山林部分とにまとまった緑被地の広がりが見られます。

(ここでの「緑被地」とは、土地利用としての公園や緑地のことではなく、樹林地、草地、公園などの植栽地および水面を含めた草木に覆われた土地を指します)

令和2(2020)年1月現在、市域全体のみどりの量(緑被地面積)は、下表に示すように約2,218haであり、およそ11年前の調査(平成21(2009)年2月)時点と比較して、約140ha減少しました。

表1 緑被地面積の変化(平成21(2009)年～令和2(2020)年)

(注) 下段は増減率(%)を示す

	平成21 (2009)年	令和2 (2020)年	増減量 2009～2020年
緑被地面積	2,358ha	2,218ha	△140ha (-5.9%)

(注) 平成21(2009)年時点の調査では、GISを用いずに計測されたデータをGISによって補正する方法を採っており、計測方法が異なります。

緑被地の減少の状況を図上で見ると、市街化区域よりも市街化調整区域での減少が多くみられます。市街化調整区域での緑被地の減少については、開発制度により農地が開発されて住宅地などに変化したことが主な要因です。

最近11年間の緑の変化の様子を、図8に示します。

図7 緑被地の現況

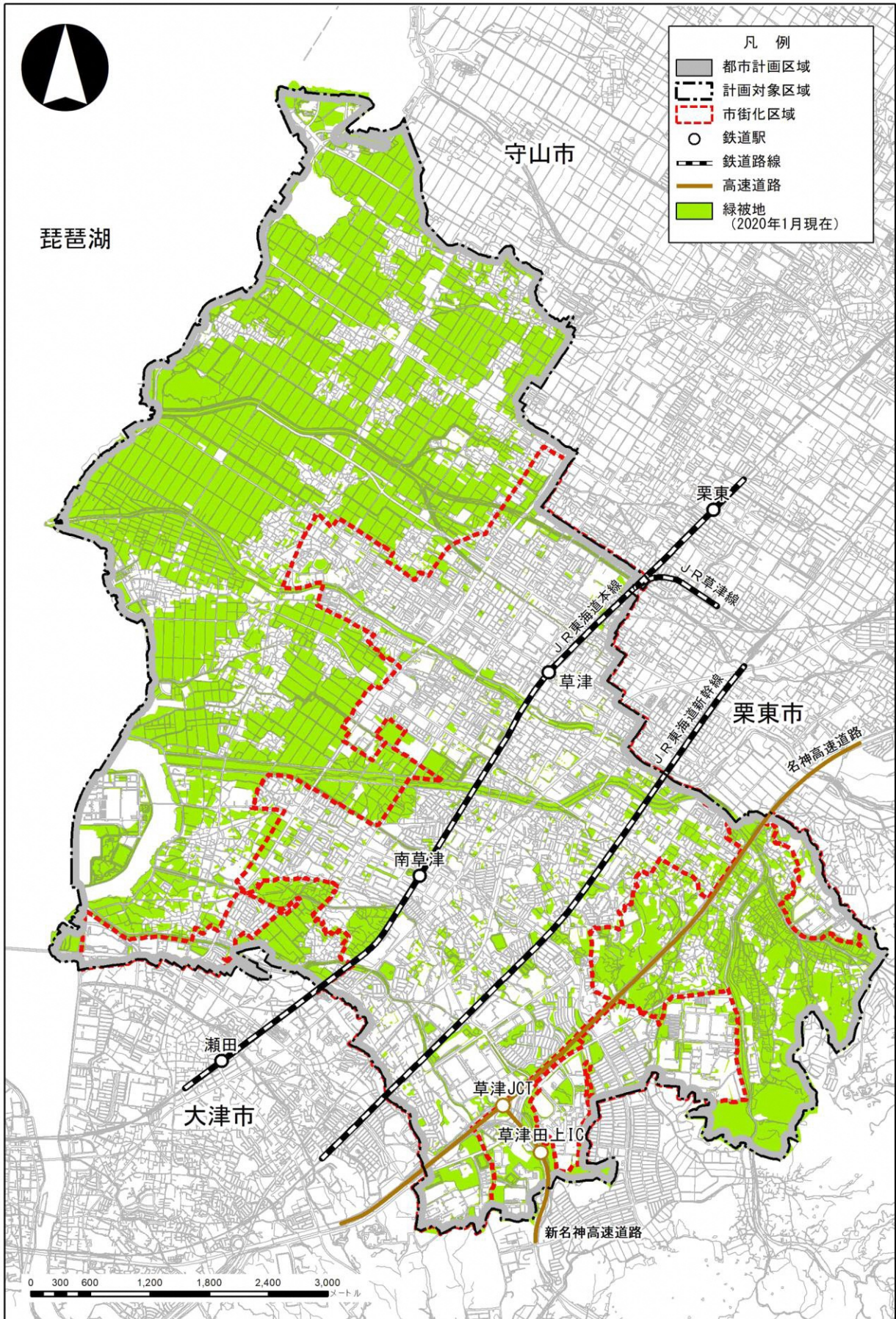
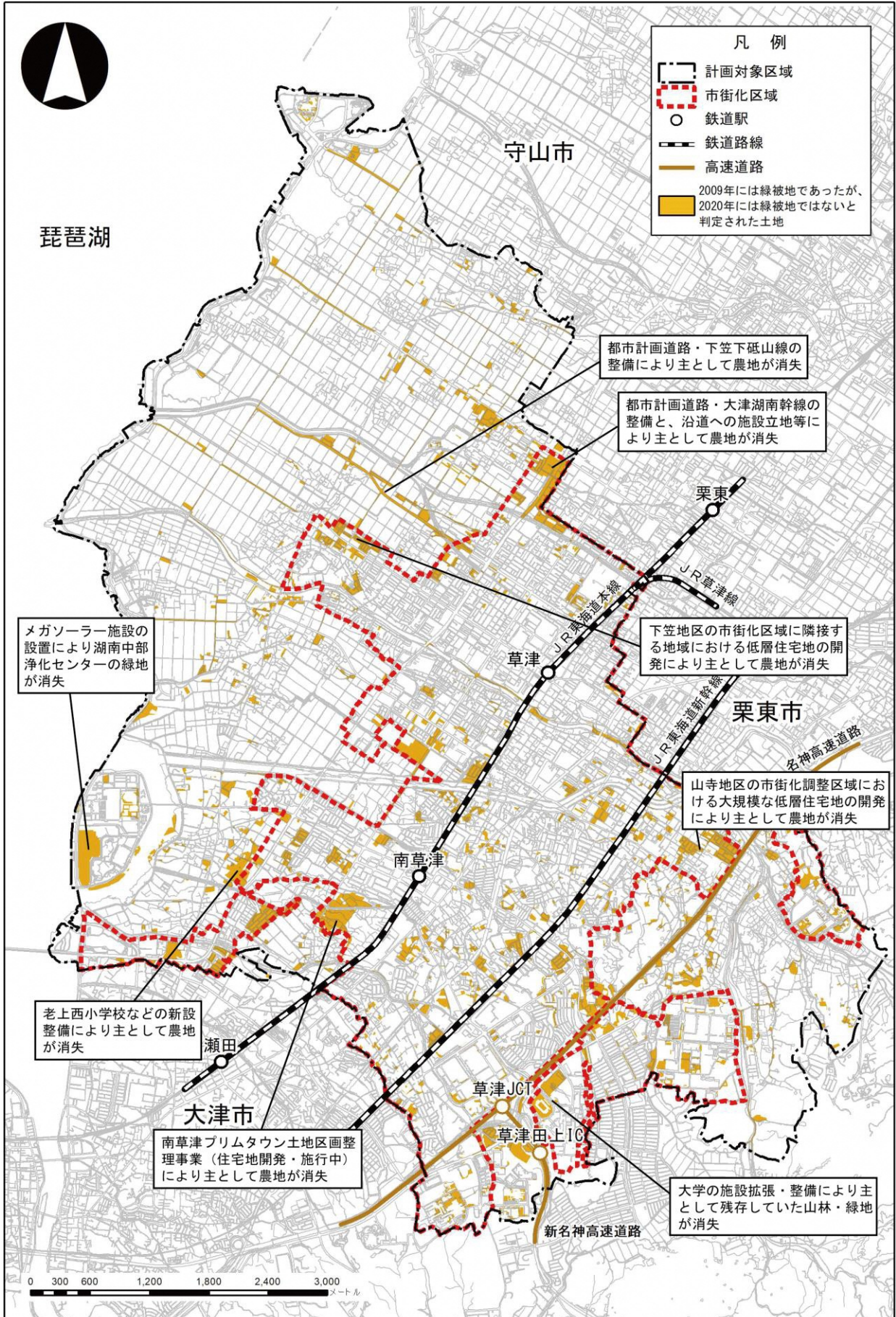


図8 緑被地の変化（消失）の状況



## (2) 都市公園などの整備状況

草津市の都市公園の整備がすすめられた結果、令和2年度末現在、整備済み面積は約81.4haになっています。11年前の平成21（2009）年末時点よりも約27.1ha増加しており、これには総合公園・草津川跡地公園（区間2【ai彩ひろば】と区間5【de愛ひろば】）および野村公園（近隣公園）の整備が大きく寄与しています。

都市公園に準じて設置・管理されている矢橋帰帆島公園※と児童遊園および農村公園を含めた施設緑地の合計面積は、令和2（2020）年度末時点で約122.7haとなっています。

※矢橋帰帆島公園の大部分は滋賀県の下水处理場用地に立地しており、将来利用までの間、公園として開放しています

表2 都市公園などの整備状況

単位：ha

公園・緑地の種別		平成21（2009）年	令和2（2020）年
都市公園	街区公園	8.75	11.21
	近隣公園	0.00	1.85
	地区公園	5.90	5.90
	総合公園	9.90	22.54
	特殊公園	3.74	3.74
	都市緑地	25.29	35.39
	緑道	0.79	0.79
合計	54.37	81.42	
児童遊園		7.94	10.02
総計		62.31	91.44

資料：R3.3.31公園管理台帳

参考：矢橋帰帆島公園、農村公園を加えた都市公園などの整備状況

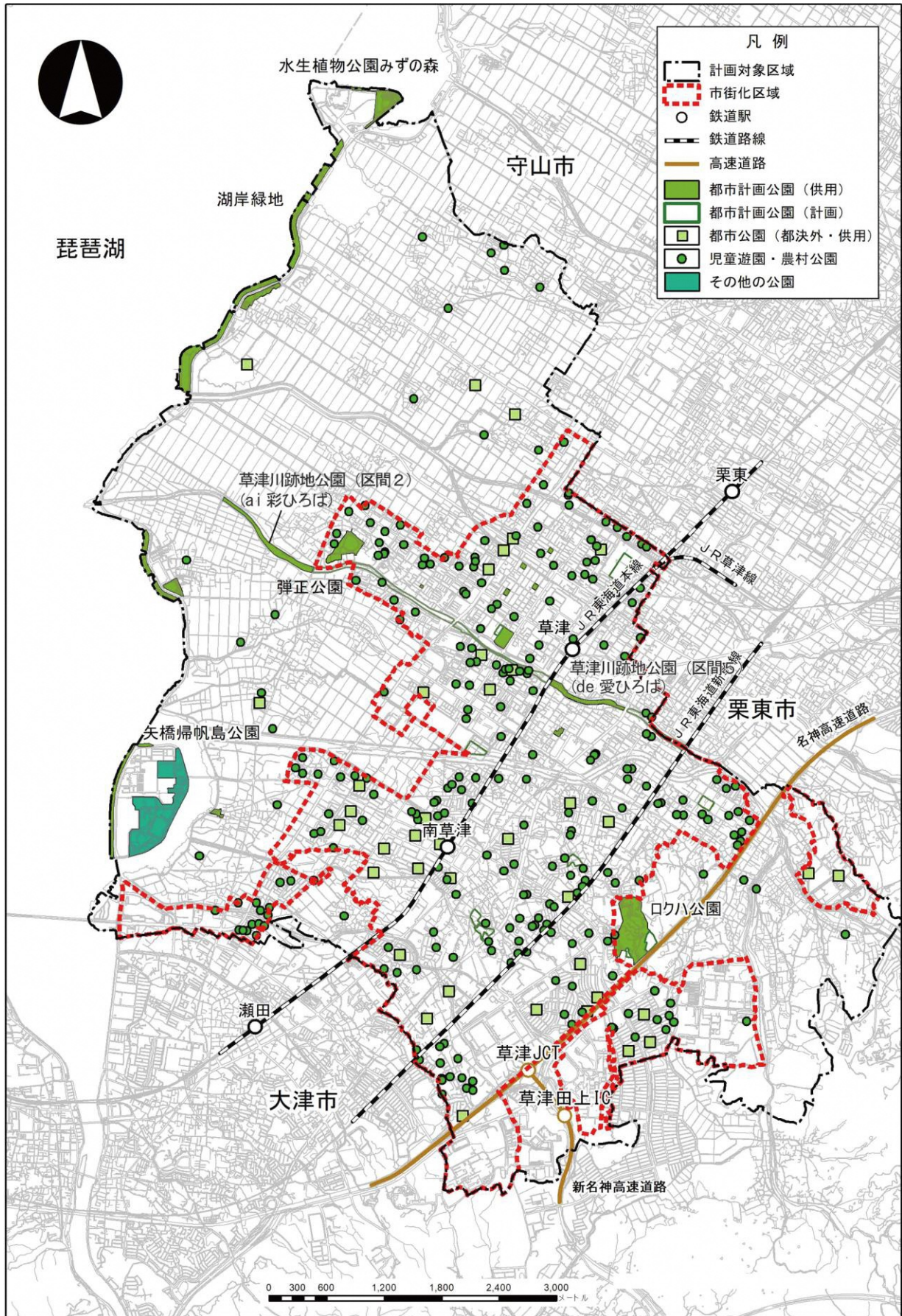
単位：ha

公園・緑地の種別	平成21（2009）年	令和2（2020）年
都市公園＋児童遊園の計	62.31	91.44
農村公園	1.27	1.27
矢橋帰帆島公園	30.01	30.01
総計	93.59	122.72

以上のように、都市公園などの施設緑地は着実に整備がすすんでいますが、市の人口も増加が続いているため、市民一人当たりの面積（平成21年：5.21㎡/人、令和2年度末：6.39㎡/人）の増加幅は小さく、今後も公園緑地の整備が必要な状況にあると言えます。

都市公園、児童遊園などの施設緑地の分布状況を、図9に示します。

図9 施設緑地分布図



### (3) 地域制緑地の指定状況

公園や児童遊園、緑道などの施設緑地とは別に、豊かな自然環境や動植物の生息地の保護、農林水産業の保全と振興、美しい景観や良好な住環境の保全などを目的に、区域を定めてみどりの保全・活用を図るいくつかの制度があり、これを「地域制緑地」と呼んでいます。

草津市には、琵琶湖国定公園（自然公園法）をはじめ、風致地区、保安林、農用地区域、ヨシ群落保全区域など、多くの地域制緑地が定められており、みどりの保護・保全が図られています。

これら地域制緑地の指定面積の推移を見ると、自然公園、ヨシ群落保全区域などの自然環境の保全を主な目的とした制度の指定面積は、ほぼ一定であるのに対し、地域森林計画対象民有林、農用地区域などの農林水産業の振興を主な目的とした制度の面積は、減少を続けています。

表3 地域制緑地の指定状況

単位：ha

		平成10 (1998)年	平成21 (2009)年	令和2 (2020)年
法によるもの	自然公園	79.00	79.00	79.00
	風致地区	113.70	113.70	113.70
	保安林	99.19	51.87	46.75
	地域森林計画対象民有林	268.00	230.00	212.00
	農用地区域	1,125.00	1,090.00	1,047.10
協定・条例等によるもの	ヨシ群落保全区域	32.71	44.10	44.10
	自然環境保全地区	12.53	12.53	14.12

(注1) 琵琶湖の水面を含む全体面積は143.70ha

(注2) 農用地区域内の「現況農用地等」のみの面積

資料：1998年及び2009年のデータ（草津市緑の基本計画業務報告書（平成10年、平成22年））

2020年自然公園（琵琶湖国定公園公園計画書（環境省、平成23年））

2020年風致地区（滋賀県の都市計画2019（滋賀県土木交通部、令和2年））

2020年保安林（滋賀県森林・林業統計要覧（滋賀県琵琶湖環境部、令和元年））

2020年地域森林計画対象民有林（湖南地域森林計画（滋賀県、令和元年12月））

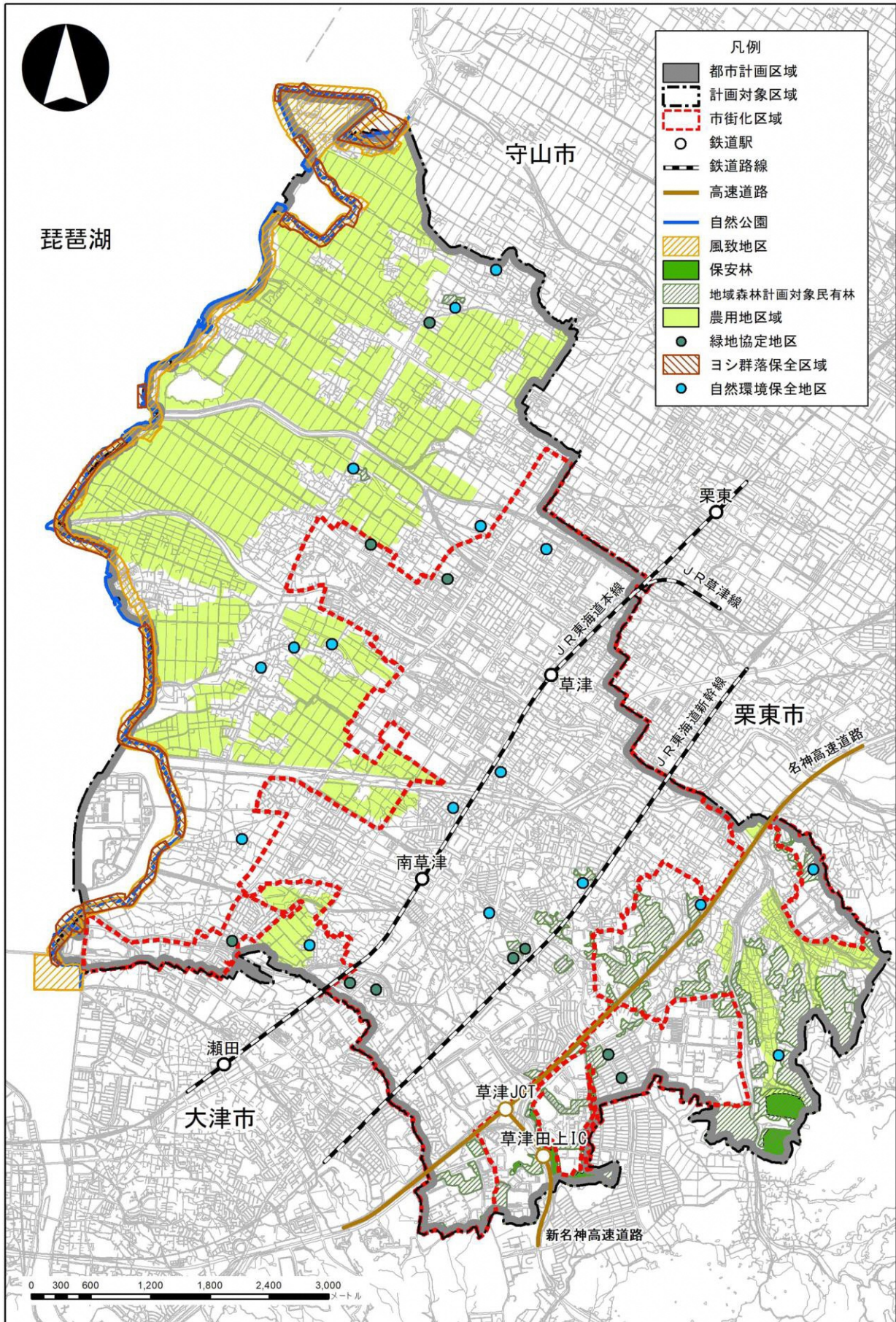
2020年農用地区域（草津農業振興地域整備計画書（草津市、平成31年3月））

2020年ヨシ群落保全区域（滋賀県）

2020年自然環境保全地区（自然環境保全地区・保護樹木（環境政策課、令和元年8月））



図10 地域制緑地の指定状況



## 2-3. 地域や市民のみどりに関わる活動の状況

公園や道路、河川などの公共施設の維持管理については、協働によるまちづくりの動きが活発になるなどの状況を背景に、公共施設の見守りにも、地域の市民が関わっていくという考え方が定着してきた結果、公共施設や民有地などの緑化や緑地保全に関する市民参加が、様々な形で取り組まれています。

### <地域コミュニティの活動>

町内会・自治会の多くで、町内の清掃活動などを通じた、みどりに関する活動が行われています。地区計画を定めて、緑化・緑地保全に取り組む地域、あるいは、近隣景観形成地区の協定を結ぶなど、地域のルールを定めて自主的な活動をすすめている地域があります。



「みち」サポーターの管理活動

### <テーマコミュニティの活動>

市民団体の活動としては、除草や清掃活動、古木の保存、緑化活動、環境学習など、地域の特性や市民団体の専門性を活かして、駅前広場でのガーデニングや草津川でのオーナー制度による桜並木の管理、植樹帯・植樹柵への花植えなど、様々な活動が行われています。

※「みち」サポーターとは  
市民と市との協働によるまちづくりの推進のため、市道の美化活動を行い、市がその活動を支援する『「みち」サポーター事業』の取組を行う市民ボランティアのこと。

### <ガーデニングの広がりづくりへ>

草津川跡地に市民活動の拠点が整備されたことで、こうした活動が一段と広く展開されようとしており、これまで開催したガーデニング講座などの申し込み状況などから、ともに活動したい、ガーデニングや自然に親しみたいと思っている市民も多く潜在しているものと思料されることから、こうした人々を繋いでいくことが重要となっています。



ニワタスでの花・木の手入れ

それぞれの市民活動団体による緑化の取組が行われる一方で、活動団体間の情報交換の場がないといった状況があり、今後いっそうの活動展開を促進する上で、各団体が連携できるような体制整備が求められています。



草津川での桜並木の管理作業

市内各地での活発なみどりのまちづくり活動団体に対し、これまでに以下のような認定や表彰などが授与されてきています。

区分	団体など	活動概要
滋賀県「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例（風景条例）」近隣景観形成地区（認定順）	桜ヶ丘町地区 （桜ヶ丘美しい風景を育てる協定） （1986（昭和61）年度認定）	公園路整備、水鳥小屋設置、花壇設置、当番制による公園などの清掃、こもれび池の環境保全などを実施。
	大宮町地区 （花と緑と「わ」のあるまちづくり協定） （1998（平成10）年度認定）	草花のコンテナ植栽などの花づくり活動を実施。
	志那町吉田地区 （志那町吉田の藤を守り育てる協定） （2001（平成13）年度認定）	公共地の樹木・花の植栽、各戸敷地内の緑化および既存の樹木などの維持管理を実施。
「みどりの愛護」 功労者国土交通大臣表彰者 （表彰年度順）	南草津団地自治会 （2007（平成19）年度表彰）	生活環境の整備の観点から、公園、遊園、河川の除草、清掃を実施。
	新浜町内会 （2008（平成20）年度表彰）	月1回、公園の除草、清掃を実施。三ツ池公園管理委員会を設置し、低木の剪定や、隧道の清掃を実施。
	草津カトリック幼稚園親和会 （2008（平成20）年度表彰）	毎週水曜に込田公園内の樹木の手入れや除草、清掃を行い、公園の維持管理のボランティア活動を実施。
	渋川まちづくり西地区協議会 （2009（平成21）年度表彰）	たばこの吸い殻、ゴミ屑拾いなどの清掃や砂場の地ならしを実施。また、草刈、樹木の剪定や施設のメンテナンスも実施。
	桜ヶ丘町内会 （2010（平成22）年度表彰）	町内会に属する環境委員会、環境ボランティアが緑の環境づくりを実施。町内会活動以外にも、公園・道路の剪定、草刈りや、こもれび池でのアヒルや鯉の飼育を実施。
	特定非営利活動法人 琵琶湖ネット草津 （2011（平成23）年度表彰）	草津川緑地において3.2kmにわたる桜並木の除草や清掃、桜の木のオーナーとの「さくら」の維持管理、河川安全パトロールなどを実施。
	草津市環境・福祉推進グループ ほほえみの会 （2012（平成24）年度表彰）	歩道街路樹の植樹マスの草抜き、清掃、「花いっぱい運動」を展開し、環境問題を中心に学習会を行い、子どもたちと共同で空き缶拾いや牛乳パックなどの回収、リサイクル活動を実施。また、福祉の面でも障害児施設での休日ボランティアを実施され、市社会福祉協議会事業に参加されるなど幅広い活動を実施。
	山田学区老人クラブ連合会 （2014（平成26）年度表彰）	山田学区内の15の老人クラブが、公民館を拠点として、合同の研修会、交流会などの開催。幼稚園児とともに琵琶湖湖岸緑地のスイセンの植え付けを実施。
	出屋敷団地あゆみの会 （2015（平成27）年度表彰）	草津川跡地のゴミの収集や清掃などの管理を行い、環境美化を推進している。

区分	団体など	活動概要
「みどりの愛護」 功労者国土交通 大臣表彰者 (表彰年度順)	吉田町三大神社「藤古木保存会」 (2018(平成30)年度表彰)	昭和62年に発足し、県指定天然記念物に指定されている三大神社の藤(砂摺りの藤)の剪定、施肥などの育成環境を整える活動を行い、藤の開花期には多くの観光客が訪れる観光資源となっている。
	草津市ガーデニングサークル “グラッシー” (2019(令和元)年度表彰)	市民参加による花とみどりづくりをすすめ、草津市が推進する「ガーデンシティくさつ」の実現のため、コミュニティガーデンの制作、花の手入れなどの活動を続けている。
「いきいき下水道 賞(水環境回復創 出部門)」国土交 通大臣賞	伯母川ビオ・パーク運営協議会 (2004(平成16)年度表彰)	伯母川ビオ・パークの植生浄化施設の維持管理を行っているほか、場内の公園管理や見学者への施設案内、施設を利用した環境学習への協力などの活動を行っている。
(公財)日本さく らの会「さくら功 労者」表彰者	特定非営利活動法人 琵琶湖ネット草津 (2014(平成26)年度表彰)	草津川緑地において3.2kmにわたる桜並木の除草や清掃、桜の木のオーナーとの「さくら」の維持管理、河川安全パトロールなどを実施。
(公財)日本花の 会「全国花のまち づくりコンク ール」表彰者	草津市ガーデニングサークル “グラッシー” (2017(平成29)年度表彰)	草津駅東ロデッキ・ニワタス、南草津駅前“陽だまり”、草津川跡地公園でガーデニングを行っている。

## ■まちづくり協議会の緑化の取組

草津市のまちづくり協議会は、地域が主体となって課題解決などのまちづくりを行うために、町内会などを中心に、各小学校区に住む人や団体などで作られる地域を代表する団体です。平成22年以降、市内の14の小学校区すべてで設立され、みどりの分野では以下のような活動を行っています。

協議会名	事業名称など	概要
志津まちづくり協議会	菊づくり講座	菊の成長に合わせた管理と育て方の実技指導、5月～8月に4回開催
	寄せ植え講座	季節の花の寄せ植え指導。11月～12月
志津南学区まちづくり協議会	環境美化活動	まちづくり協議会の環境美化委員会・緑化ボランティアの会が、かがやき通りの通学路の除草を実施 若草地区地区計画に伴う垣根剪定、緑道、児童遊園の剪定・除草作業、町内一斉清掃を年4回実施、毎週地域内の緑道、公園の環境整備作業
	花いっぱい運動	緑化ボランティアの会の「花ボランティアの会」は、若草中央児童遊園を中心に、年間を通して四季折々の草花の植栽管理を行い、公園をはじめ、診療所や銀行、郵便局などに行き来する利用者の安らぎの場を提供。令和元年より緑化ボランティアの会に「芝桜プロジェクト」を立ち上げ、芝桜の植え付け整備している。今年は志津南小学校校門付近などへの植え付けを計画
草津学区ひと・まじきいき協議会	花いっぱい運動	まちづくり協議会の安心安全委員会で各町内集会所周辺の花植栽に花苗を供給し、集会所周辺の花の管理を各町内で実施
大路区まちづくり協議会	花いっぱい運動	大路まちづくりセンター前プランターで春と秋に花を植栽 大路区民まつりでガーデニング講座を開催
	みちサポート事業	更生保護女性会による「フレンドガーデン」に苗を補助
渋川学区まちづくり協議会	花植えとじゃがいも植え	渋川小学校にて、卒業・入学する児童をお祝いするための花を地域の大人と子どもで植える。同時にじゃがいもの種イモを畑に植える
	じゃがいも収穫体験	地域の大人と子どもと一緒にじゃがいもを収穫する
	まちづくりセンター緑化活動	渋川まちづくりセンター（福複センター）の花壇に春の花・あおばな・葉ぼたんなどの植栽を実施する
矢倉学区未来のまち協議会	花いっぱい運動	花いっぱい運動の参加者である住民サポートの方々（美しいまち推進部会）が公園、道路の緑地帯、集会所などの空き地に、プランターで花を植栽管理し、四季を通じた花いっぱいのまちづくり活動に取り組んでいる。親子で季節の花を生ける体験会も併せて実施。また、ポイ捨てゴミの回収にも務め、これらの取組を通して、地域住民の絆を強め、助け合う地域づくりへとつながっている
老上学区まちづくり協議会	菊づくりボランティア	『夢街道「あいさつ通り」推進友の会』が年2回、春と夏にセンター庭のプランター約40個に季節の花を植える。例年は、わんぱく事業と共催で行う
	前庭大掃除	まちづくりセンター前庭の除草や植栽の剪定を行い、地域住民の憩いの場として維持管理を実施。令和2年度の「センター講座」として、地域の方と前庭のデザインを考え、植栽や手入れを年間を通じておこなっている

協議会名	事業名称など	概要
老上西学区 まちづくり 協議会	平和の緑づくり事業 (地域部門)	草津市立老上西まちづくりセンターにモミジ、ハナミズキ、イチゴノキ、スカイペンシルの成木や苗木を植栽
	菊を育てる会	長年にわたり継承されてきた菊の命を継ぐ活動。菊の挿し木から開花まで地域の方々に世話をし、センター前に展示
	グリーンカーテン	センター事務室の窓でゴーヤ、キュウリを栽培
	さくらの木オーナー会	草津川桜557フェスタへの参加。草津川堤防の散在しているゴミの回収と雑草の除草作業を実施
遺跡と萩の育む玉川まちづくり推進会議	花いっぱい運動	まちづくりセンター・学区内でプランターによる花の栽培を実施
	グリーンカーテン植え方講習会	地域住民に、ゴーヤやキュウリによるグリーンカーテンの栽培方法の講習会を開催し、地域緑化と省エネ推進を実施 玉川まちづくりセンター内でのグリーンカーテンの栽培・維持管理
南笠東学区 まちづくり 協議会	わおんの広場花いっぱい	わおんの広場花壇に花植えを実施
	南笠東学区清掃ボランティアの日	南笠東学区では、2017年(平成29年)度から7月を清掃ボランティアの日と定め、公園をはじめ道路、河川などの清掃活動を実施
	狼川河川公園利用促進活動	狼川河川公園の利用促進のため、公園内の除草、緑化活動をはじめ、芝生の芝刈りや水やりなどの手入れを実施
笠縫学区 まちづくり 協議会	子ども体験事業	まちづくり協議会子ども育成部会が春にはまちづくりセンター敷地内に花植えを行い、秋には地域協働合校として小学生を対象にさつまいもの収穫体験を実施
笠縫東学区 まちづくり 協議会	美しい自然環境を守り、ホタルが飛び交うまちづくりの推進	憩いの場・ふれあいの場・学ぶ場の設置や河川の護岸などに桜の木を植樹し、河川の水辺空間の活用をすすめ、潤いのあるまちづくりを実施
人と地域が輝く 常盤協議会	三大神社の「砂ずりの藤」保存活動	三大神社に植えられた県指定自然記念物の樹齢400年ともいわれる老藤の管理・保存活動を三大神社藤古木保存会が行い毎年、藤まつりを開催
	ルピナスの花による景観形成	地域の畑の一部や空き地にルピナス(のぼり藤)を植栽し、田園風景の中に、ルピナスの花が豊かな色彩を演出

## 2-4. みどりに関する市民の意識

### (1) 市民意識調査の概要

市内の「みどり」や「みどりのまちづくり」について、草津市民がどのように感じており、今後、どのようなことを望んでいるのかを知り、この「みどりの基本計画」をつくる際の指針、参考とするため、「第3次草津すみどりの基本計画策定に係る市民意識調査」を実施しました。

調査を実施した時期、調査対象者、配布・回収の方法と回収状況など、調査の概要は以下の通りです。

○調査期間	令和2（2020）年6月15日～6月30日
○調査対象者	草津市内に在住の満18歳以上の市民
○抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
○配布方法	調査依頼文・調査票・参考資料および返送用封筒（受取人払い）を郵送配布
○回収方法	郵送回収またはインターネット回答
○配布回収状況	配布数：3,000件、有効回収数：987件（郵送＝746、インターネット＝241）
○有効回収率	32.9%

調査の内容は、回答者の属性（年齢、職業、市内の居住歴など）のほか、以下の各項目としました。

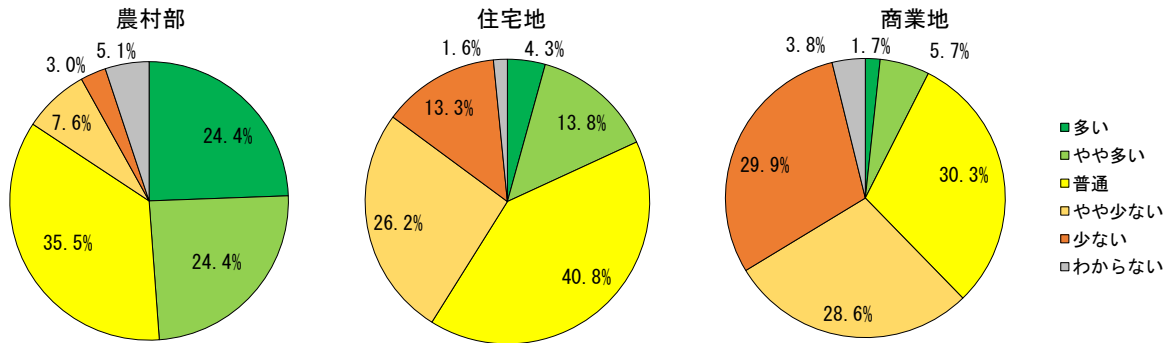
1. 市全体の「みどり」の現状（評価、満足度など）について
2. 草津市内の公園（比較的、大規模な公園）について
3. 草津市内の公園（身近にある小規模な公園）について
4. みどりに関する市民の取組について
5. その他の意見（自由記述）

## (2) 市民意識調査の結果

### ■市全体の「みどり」の現状について

#### 市全体を見渡してのみどりの量についての評価

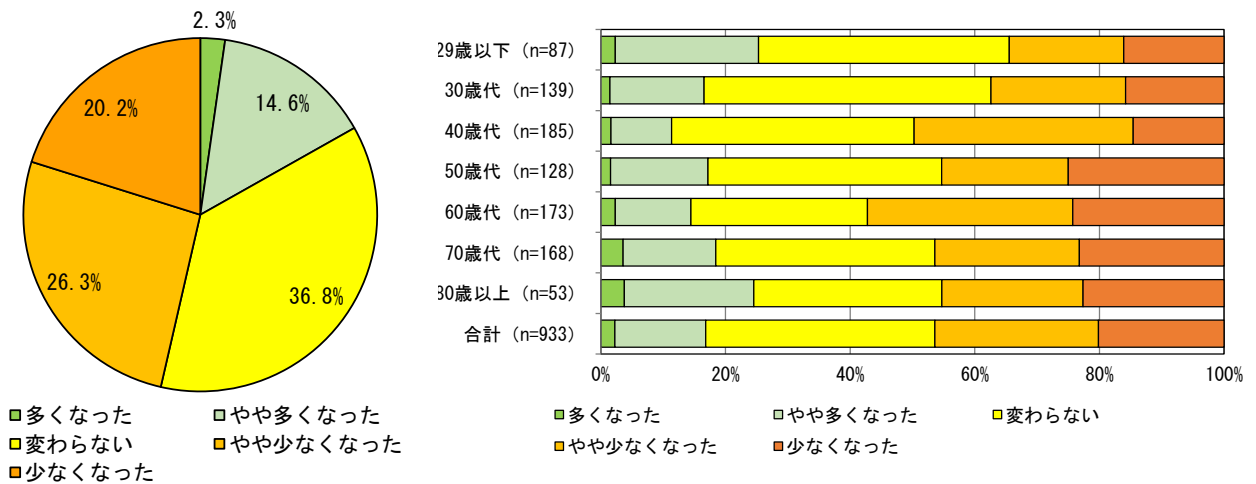
- ・農村部のみどりの量については、「多い」と「やや多い」の計がほぼ半数を占めますが、商業地のみどりの量については「少ない」と「やや少ない」の計の割合が高くなっています。



(注) 四捨五入処理の関係で、グラフ中の各構成比 (%) の合計は必ずしも 100%にはならない。

#### 10年前と比較した市全体のみどりの量

- ・10年前と比較した市全体のみどりの量については、「多くなった」、「やや多くなった」と感じる人の比率が約17%を占める一方で、「少なくなった」、「やや少なくなった」と感じる人は半数近くを占めています。回答者の年代による違いはあまりみられません。
- ・前回（平成22年の第2次草津市緑の基本計画策定時）の意識調査でも同様の傾向がみられますが、今回は「少なくなった」という回答がやや減少し、「多くなった」という回答がやや増加しています。

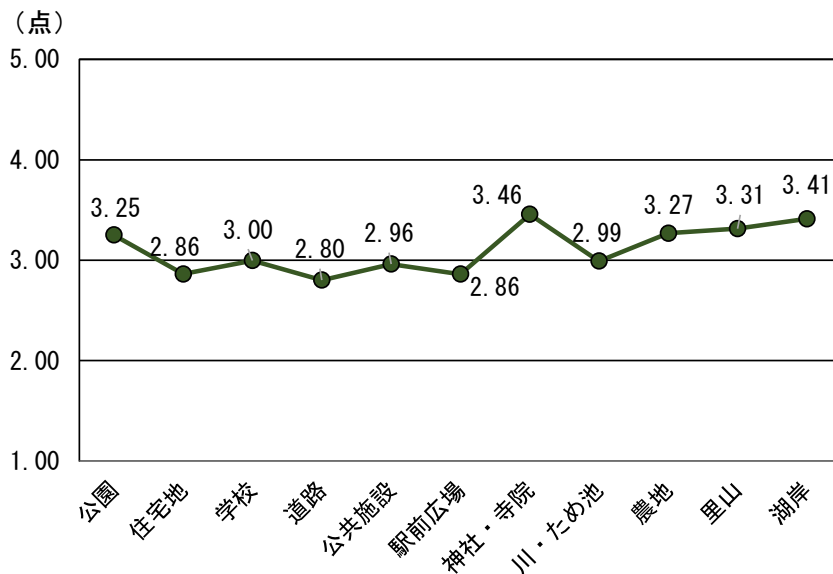


(注) 四捨五入処理の関係で、グラフ中の各構成比 (%) の合計は必ずしも 100%にはならない。



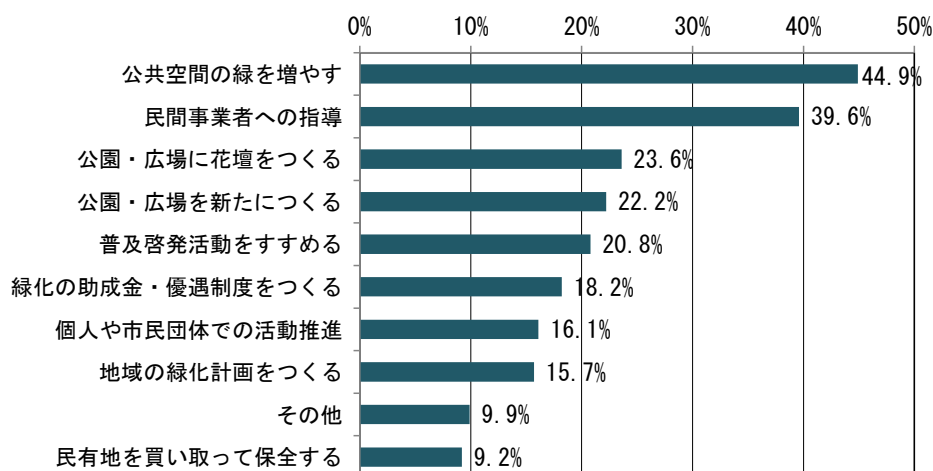
## 場所ごとのみどりについての満足度

- 公園、住宅地、学校、道路など多様な場所ごとに、それぞれの場所の平均的な満足度の度合いを比較できるように、「満足」=5点、「普通」=3点、「不満」=1点とする点数化を行いました。
- 点数化の結果は、どの場所についてもおおむね3.0点前後となっています。比較的満足度が高いのは、「神社・寺院のみどり」、「湖岸」、「里山」、「農地」などであり、「道路」、「駅前広場」、「住宅地」などでは満足度がやや低くなっています。



## 市全体のみどりについて、今後必要だと思う取組（複数回答）

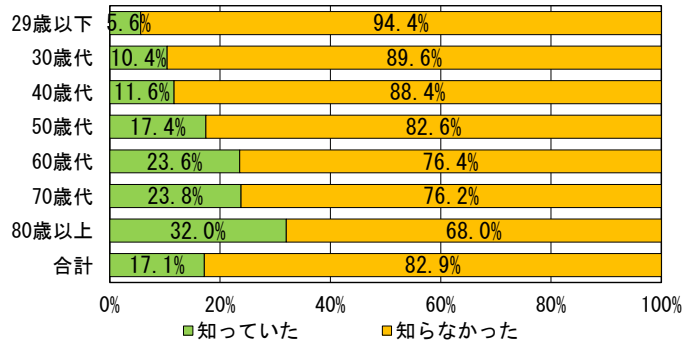
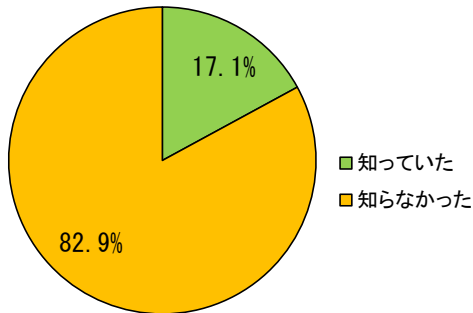
- 市全体のみどりについて、今後必要だと思う取組については、「公共空間の緑を増やす」が44.9%と最も高く、次いで「民間事業者への指導」が39.6%となっています。



「ガーデンシティくさつ」の政策の認知度

- 「ガーデンシティくさつ」については、「知っていた」という回答は 17.1%にとどまっていますが、回答者の年齢が高くなるほど認知度は高くなり、80 歳以上では 30%以上に上っています。
- また、若年層の認知度は、29歳以下で 5.6%、30歳代で 10.4%にとどまっています。

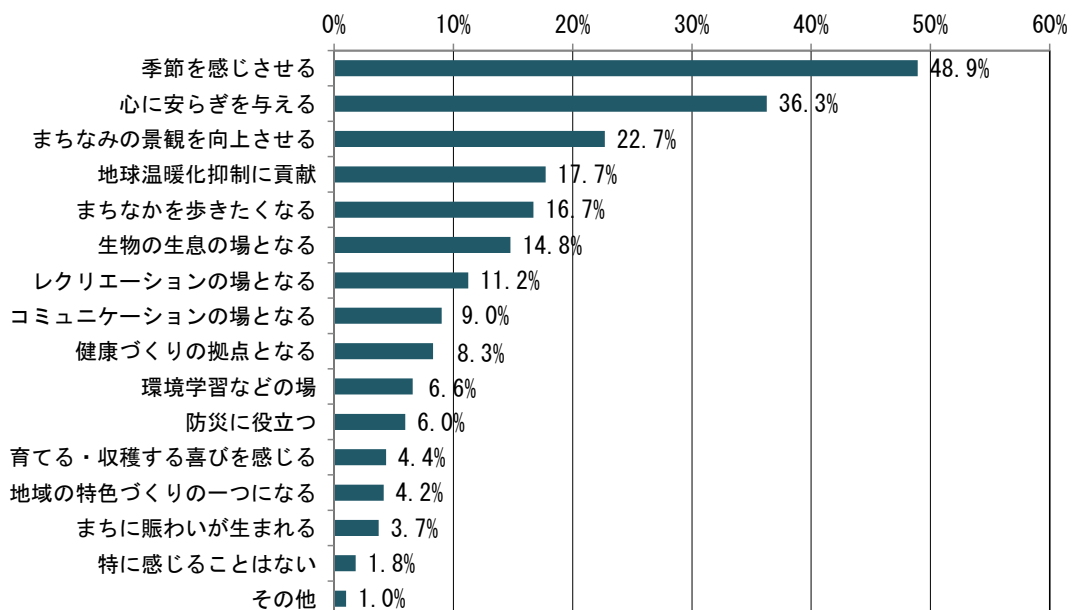
ガーデンシティくさつ



(注) 四捨五入処理の関係で、グラフ中の各構成比 (%) の合計は必ずしも 100%にはならない。

市全体のみどりについて、感じることや期待すること (複数回答)

- 「市全体のみどりについて、感じることや期待すること」に対しては、「季節を感じさせる」という回答が 48.9%と最も高く、次いで「心に安らぎを与える」や「まちなみの景観を向上させる」などが多くあげられています。
- 実際に公園などの施設を利活用することよりも、みどりが人の感情に及ぼす良い影響、心の安らぎなどの精神作用への期待が強いと考えられます。



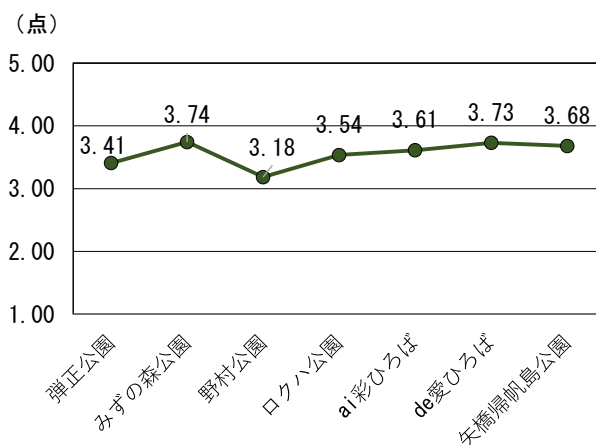
## ■草津市内の大規模な公園について

草津市内に開設されている大規模な以下の7公園について、現状の利用状況や満足度、今後、公園にどのような施設などを希望されているかについて質問しました。

- ①弾正公園（グリーンスタジアムなど）
- ②水生植物公園みずの森
- ③野村公園（YMIT アリーナなど）
- ④ロクハ公園（遊泳プールなど）
- ⑤ai 彩ひろば（草津川跡地公園区間2）
- ⑥de 愛ひろば（草津川跡地公園区間5）
- ⑦矢橋帰帆島公園

### 大規模公園についての満足度

- ・7つの公園に対する満足度を比較できるように、「満足」＝5点、「普通」＝3点、「不満」＝1点とする点数化を行いました。各公園とも平均点（3.00）を上回っており、全体として利用者の満足度は高い評価となっています。
- ・最も満足度が高かったのは「みずの森公園」で3.74点、わずかな差で「de 愛ひろば」が3.73点、「矢橋帰帆島公園」が3.68点と続いています。
- ・3.18点の「野村公園」、3.41点の「弾正公園」は、平均点（3.00）を上回ってはいるものの、他の公園よりも相対的に満足度がやや低くなっています。



みずの森



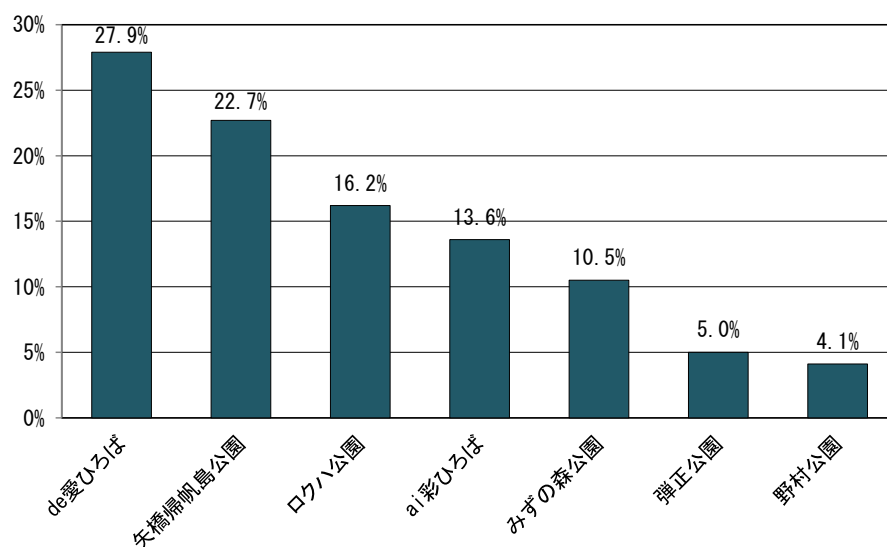
de 愛ひろば



ロクハ公園

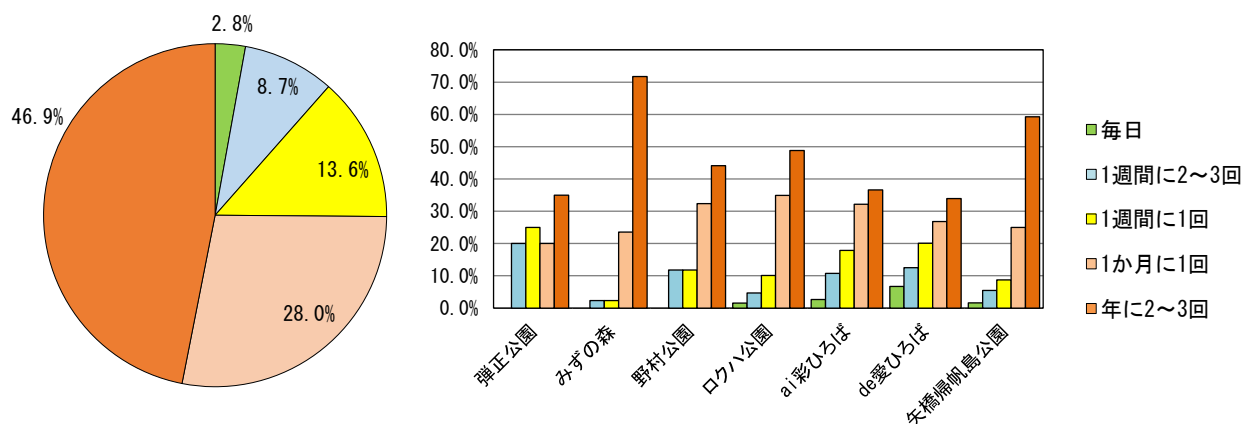
## 大規模公園のうち、1番よく利用する公園

- 7つの大規模公園のうち、「1番よく利用する公園」であげられたのは、1位：de愛ひろば、2位：矢橋帰帆島公園、3位：ロクハ公園」でした。「みずの森公園」と「矢橋帰帆島公園」とは、前問で示したように満足度の面で高く評価されています。



## 1番よく利用する公園の利用頻度

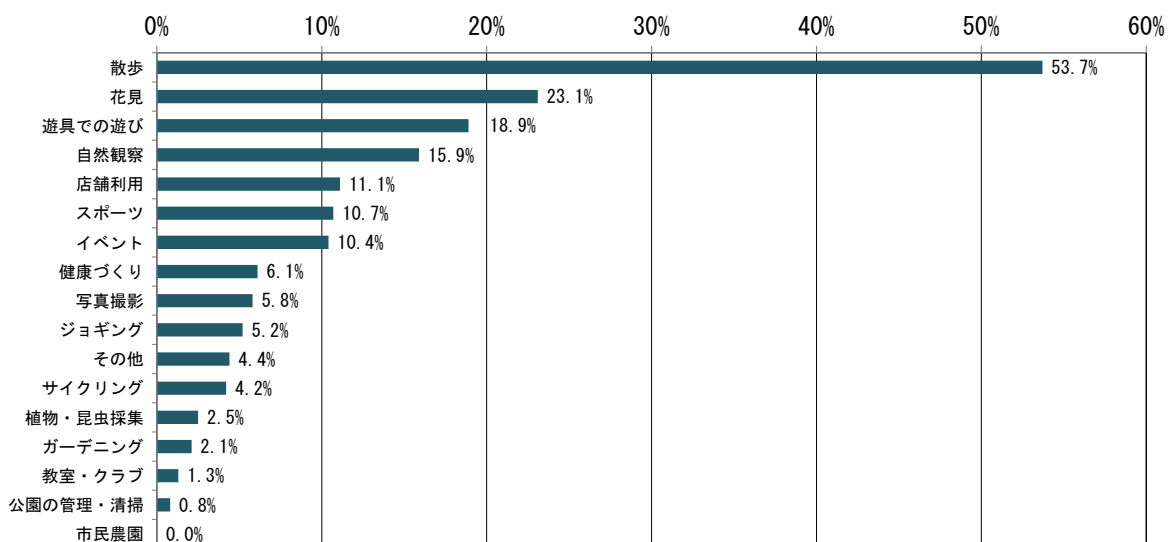
- 1番よく利用する公園について、その公園の利用頻度を問うと、「年に2～3回程度」という回答が46.9%と最も高く、次いで「1か月に1回程度」が28.0%、「1週間に1回程度」が13.6%となっています。
- 公園別に見ると、みずの森公園と矢橋帰帆島公園で「年に2～3回程度」という回答が特に多くなっています。



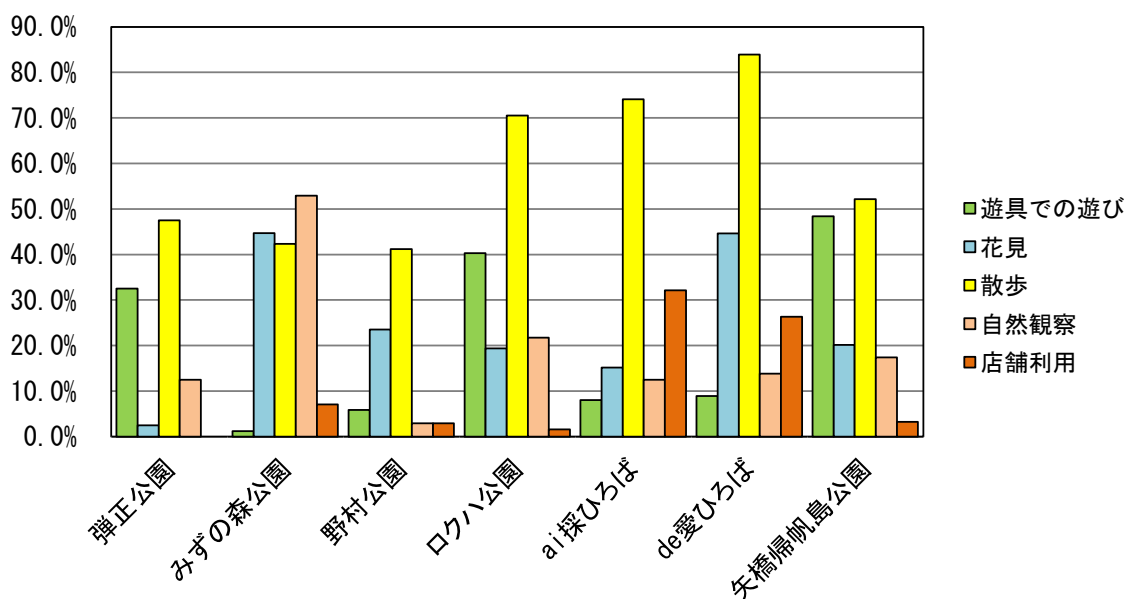
(注) 四捨五入処理の関係で、グラフ中の各構成比 (%) の合計は必ずしも 100%にはならない。

## 1番よく利用する公園の利用目的（複数回答）

- ・大規模公園の利用目的では、「散歩」という回答が最も多く、次いで、「花見」、「遊具での遊び」、「自然観察」などが多くなっています。
- ・また、「飲食店など店舗の利用」や「スポーツ」、「イベントへの参加」など、従来の公園では必ずしも中心的な目的とは言えない目的をあげた回答がそれぞれ10%を超えている点も注目されます。

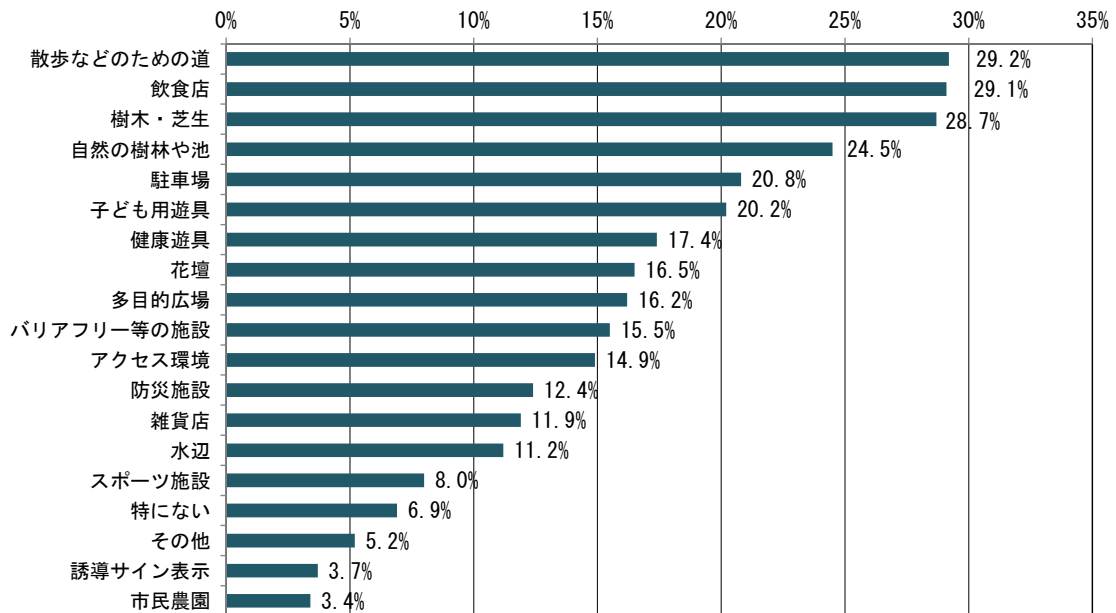


- ・公園別に利用目的（全7公園合計での上位5位までの目的）の違いを見てみると、みずの森公園で「自然観察」、ai 彩ひろばと de 愛ひろばで「店舗利用」、弾正公園、ロクハ公園、矢橋帰帆島公園で「遊具での遊び」がそれぞれ多くあげられており、各公園の特徴をよく表しているものと考えられます。



大規模公園に今後欲しいと思う施設や設備（複数回答）

- 大規模公園に今後欲しいと思う施設や設備は、「散歩などができる道」、「飲食店」、「樹木や芝生などのみどり」の3つが約30%と高い割合となっています。

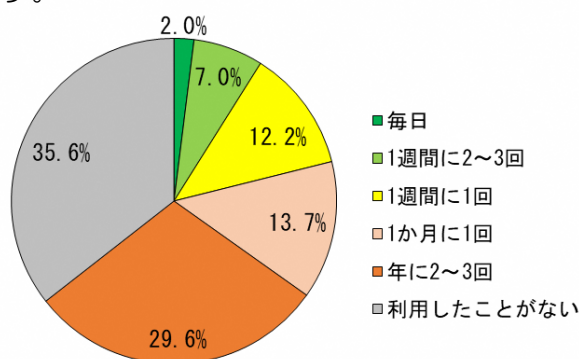


## ■ 住まい近辺の身近にある小規模な公園について

ここでは、大規模公園とは異なる利用の仕方やニーズが予想される住まい近辺の小規模な公園（児童遊園や街区公園など）について、現状の利用頻度や目的、今後欲しい施設や設備、満足度、維持管理について質問しました。

### 小規模な公園の利用頻度

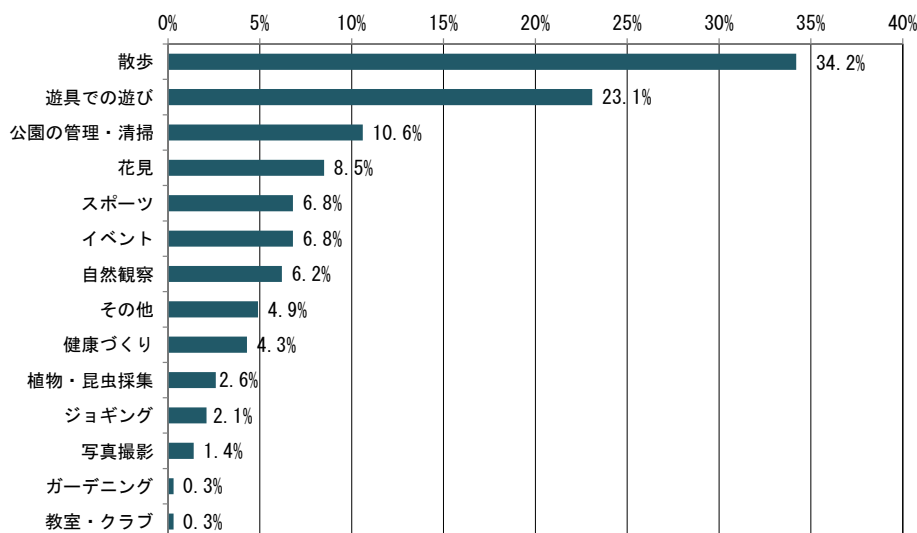
- 身近にある小規模な公園の利用頻度については、「利用したことがない」という回答が35.6%と最も高くなっています。利用経験がある場合、「年に2～3回程度」が最も多く、全体として小規模公園の利用頻度はあまり高くないという結果となっています。
- 前回（平成22年の第2次草津市緑の基本計画策定時）の意識調査でも、ほぼ同様の傾向がみられます。



(注) 四捨五入処理の関係で、グラフ中の各構成比 (%) の合計は必ずしも 100%にはならない。

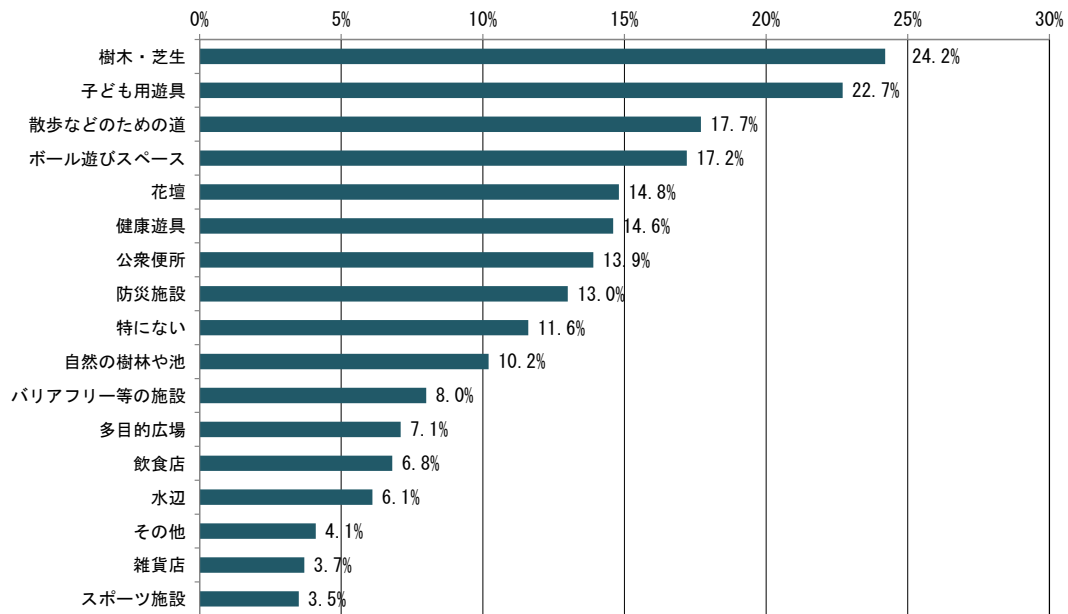
### 小規模な公園の利用目的（複数回答）

- 小規模な公園の利用目的については、「散歩」という回答が最も多く、大規模公園の場合と同じ傾向がみられますが、それに次いで「遊具での遊び」や「公園の管理・清掃への参加」という回答が多い点は、身近な小規模公園の利用の特徴をよく表しているものと考えられます。



小規模な公園に今後欲しいと思う施設や設備（複数回答）

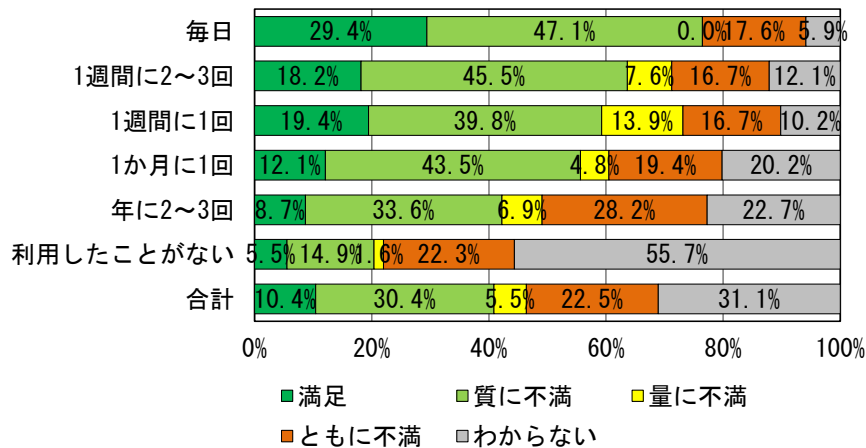
- 小規模な公園に今後欲しいと思う施設や設備として、「樹木や芝生などのみどり」、「子ども用遊具」の2つの回答が多く、次いで「散歩やジョギングができる道」と「ボール遊びができるスペース」の回答が多い結果となっています。



- 小規模な公園に今後欲しいと思う施設や設備を学区別に見ると、1位、2位にあげられる項目は必ずしも一致しておらず、地域による差異がみられます。

小規模な公園の量や質についての評価

- 小規模な公園の量や質についての評価では、「わからない」を除けば「量は十分だが、質には不満がある」という回答が最も多く、「量・質ともに不満だ」が続いています。公園の「質」についての評価が低く、今後、公園の質（設備の内容や管理・運用のあり方など）を高める検討が必要と考えられます。

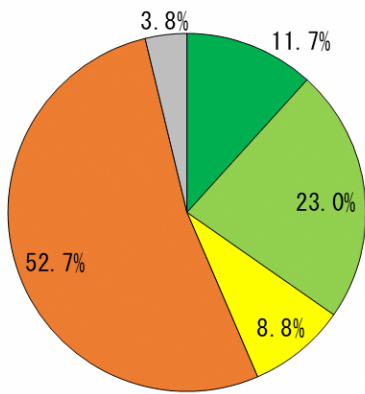


(注) 四捨五入処理の関係で、グラフ中の各構成比(%)の合計は必ずしも100%にはならない。

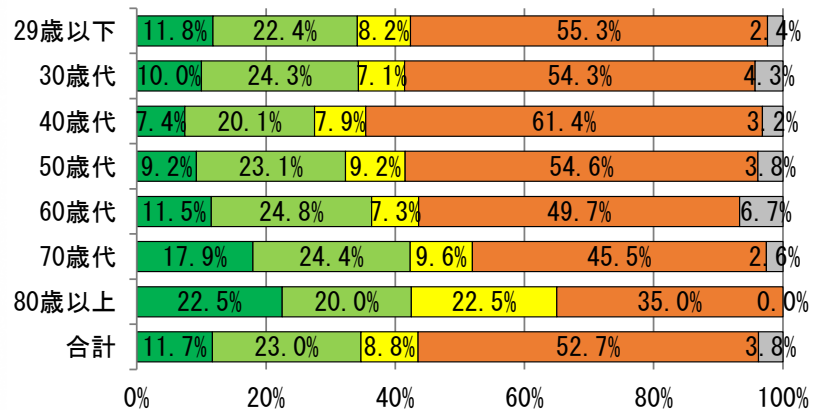


小規模な公園の維持管理について

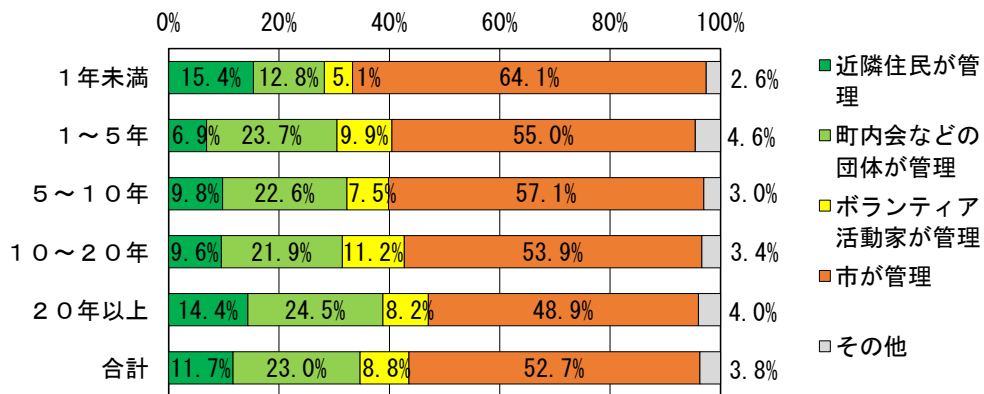
- 小規模な公園の維持管理については、「市が管理」という回答が半数を超えています。一方、近隣住民や町内会、ボランティアなど地域が主体の管理をあげた回答も、合計で40%以上あり、身近な小公園を自分たちの手で維持管理しよう、という意欲も十分感じられる結果となっています。
- ボランティアなどの地域が主体となる管理についての回答を回答者の年代別にみると、高年齢層で高い傾向があり、40歳代が35.4%と最も低い結果となっています。しかし20歳代・30歳代では40%を超えることから、若年層において地域による管理の必要性が一定認識されていることが考えられます。
- 回答者の居住年数別に見ると、居住年数が長くなるほど「地域が主体の管理」をあげた回答が多い結果となっています。
- 前回（平成22年の第2次草津市緑の基本計画策定時）の意識調査でも、ほぼ同様ですが、「近隣住民が管理」をあげる割合は今回やや低下しています。



■ 近隣住民が管理  
 ■ 町内会などの団体が管理  
 ■ ボランティア活動家が管理  
 ■ 市が管理  
 □ その他



■ 近隣住民が管理  
 ■ 町内会などの団体が管理  
 ■ ボランティア活動家が管理  
 ■ 市が管理  
 □ その他



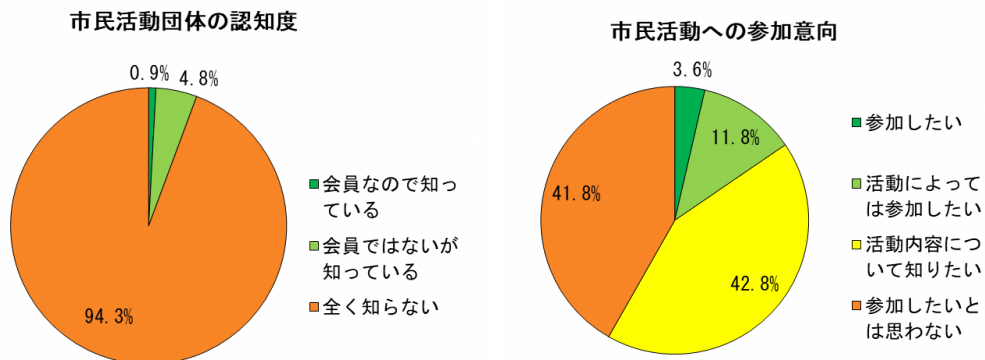
■ 近隣住民が管理  
 ■ 町内会などの団体が管理  
 ■ ボランティア活動家が管理  
 ■ 市が管理  
 □ その他

(注) 四捨五入処理の関係で、グラフ中の各構成比(%)の合計は必ずしも100%にはならない。

## ■みどりに関する市民の取組について

### みどりに取り組む市民活動について

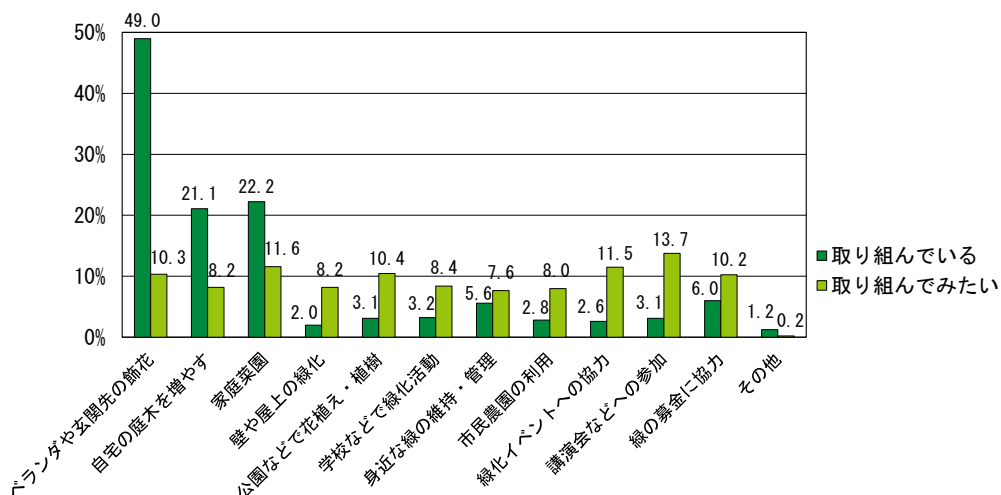
- ・市内にはいくつもの市民団体やNPO法人が、みどりに関する取組を行っていますが、市民の間での認知度は低く、そのような活動を「全く知らない」という回答が94.3%となっています。
- ・市民活動への参加意向については、「参加したい」と「活動によっては参加したい」の合計は15%強ですが、「参加しないが活動内容について知りたい」という回答が40%強あり、過半数の方がみどりの活動に対する興味・関心を持っています。



(注) 四捨五入処理の関係で、グラフ中の各構成比(%)の合計は必ずしも100%にはならない。

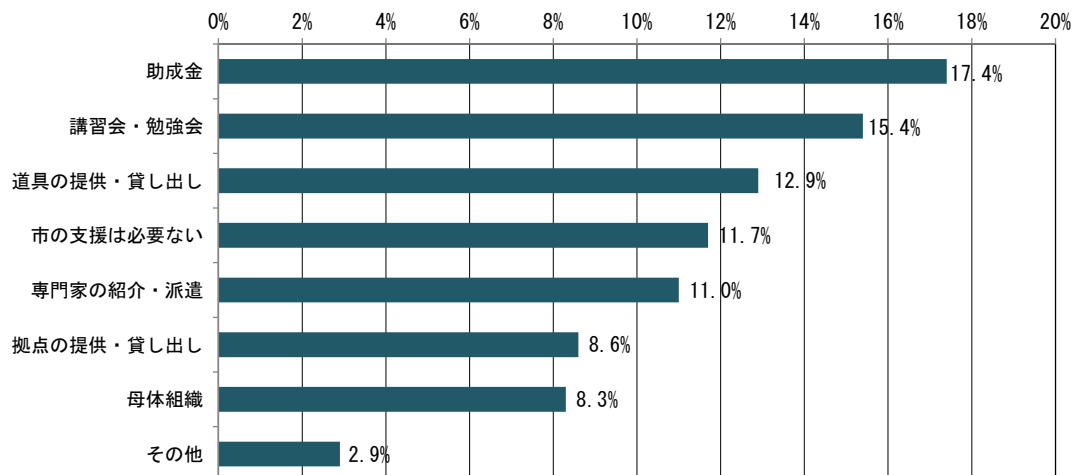
### 取り組んでいる、または、取り組んでみたい緑化活動（複数回答）

- ・現在取り組んでいる緑化活動については、「ベランダや玄関先の飾花」という回答が最も多く、次いで「庭に家庭菜園をつくる」と「自宅の庭木を増やす」が続いています。
- ・取り組んでみたい緑化活動については、「講演会などへの参加」が最も多く、次いで「家庭菜園」、「緑化イベントへの協力」、「公園などでの花植え・植樹」などが多くあげられており、自宅以外での緑化活動への参加意欲があることを示しています。

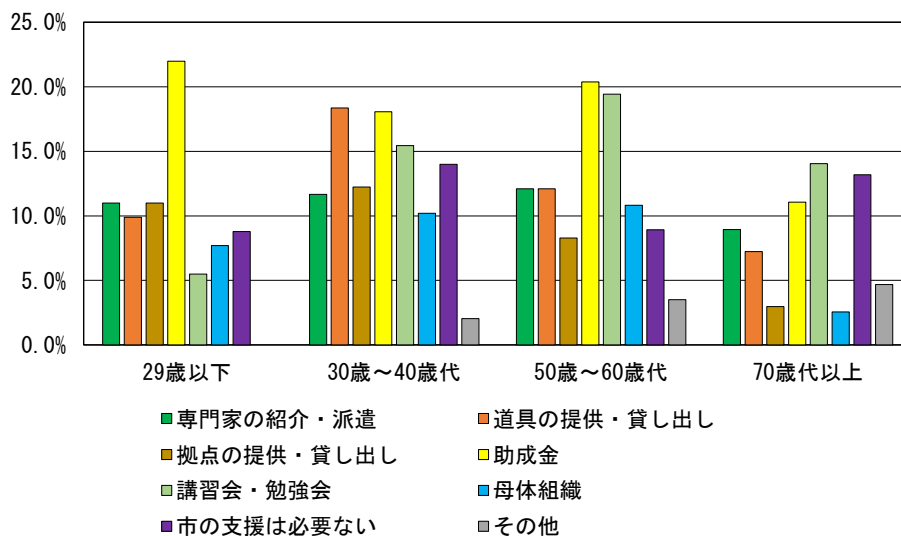


取り組んでいる、または、取り組んでみたい緑化活動に必要なと思うこと  
(複数回答)

- 取り組んでいる、または、取り組んでみたい緑化活動に必要なと思うことについては、「助成金」が17.4%、「講習会・勉強会」が15.4%と高い割合となっています。
- 29歳以下の年代層では「助成金」が突出して高く、30歳～40歳代では「道具の提供・貸し出し」や「助成金」、50歳～60歳代では「助成金」や「講習会・勉強会」、70歳代以上では「講習会・勉強会」と「市の支援は必要ない」がそれぞれ多くあげられており、年代による考え方の違いがみられます。
- 70歳代以上を除く年齢層で、「道具の提供・貸し出し」や「活動拠点の提供・貸し出し」という回答が一定数あり、自ら身体を動かして取り組む活動への関心が一定程度みられます。

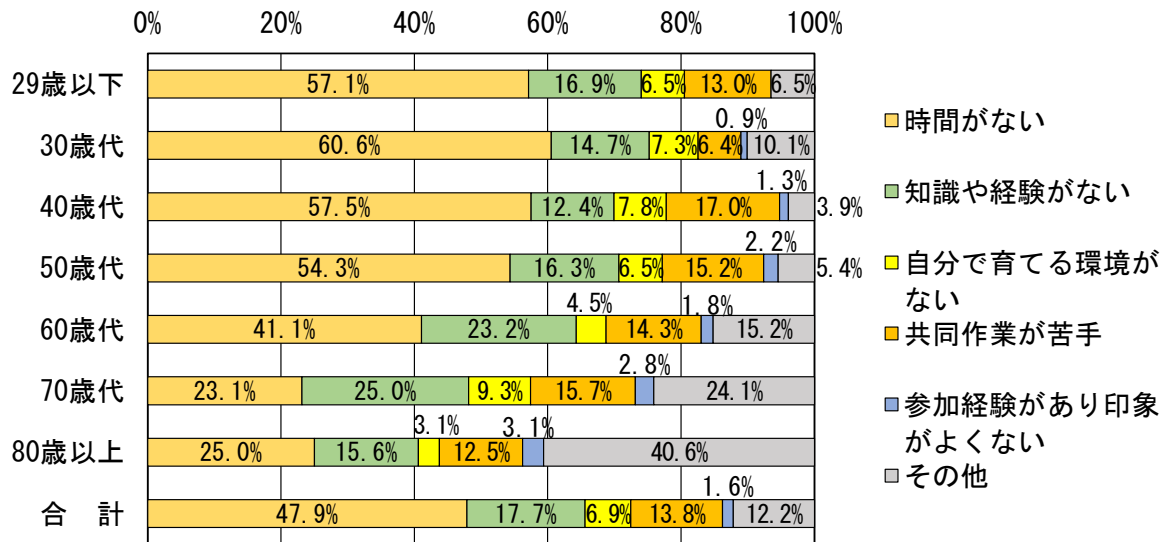


年代別、緑化活動に必要なと思うこと



## 緑化活動に取り組んでみたいと思わない理由

- ・緑化活動に取り組んでみたいと思わない理由としては、「活動に参加する時間がない」という回答が多く、年齢層が若くなるほどその傾向が顕著にみられます。一方で70歳代、80歳以上になると「時間がない」の割合は25%程度にとどまり、「その他」の回答が多く、「体力的に難しい」という意味合いの回答が多くみられました。



(注) 四捨五入処理の関係で、グラフ中の各構成比(%)の合計は必ずしも100%にはならない。

## 2-5. みどりに関する課題の整理

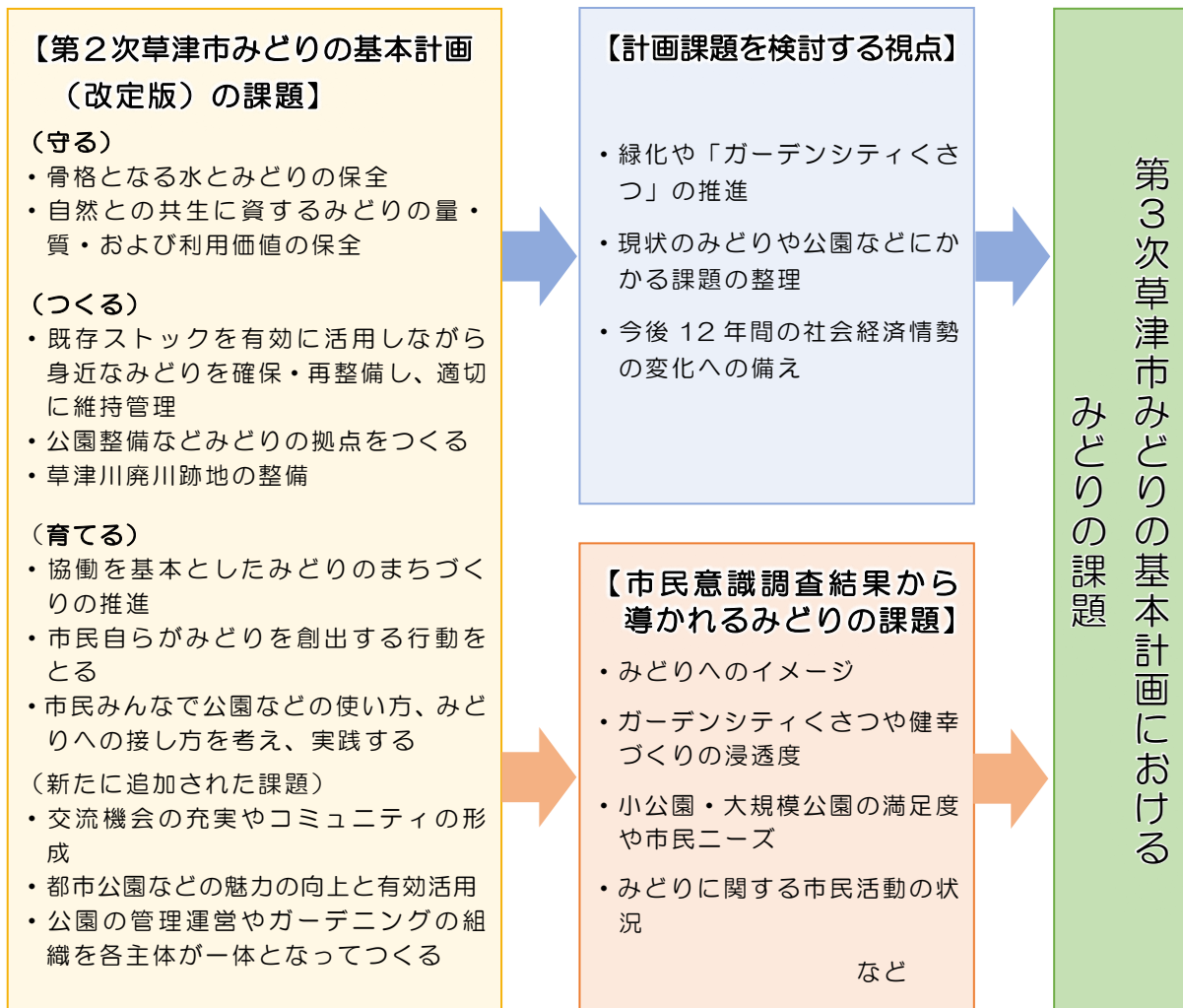
### (1) みどりに関する課題について

第2次草津市みどりの基本計画（改定版）では、10年前の平成22（2010）年9月に策定した8つの課題に加えて、新たに「ガーデンシティくさつ」の実現を図るための3つの計画課題が追加され、図11に示すように、全部で11の課題を提示していました。

今回の第3次草津市みどりの基本計画の策定にあたっては、持続可能な社会づくりの流れ、ガーデンシティくさつの実現と健幸都市づくり、協働の精神に基づくまちづくり、生物多様性の保全、などの諸問題に向き合うことが求められています。

また、みどりに関する市民の思いや希望などの意向把握は、平成22年の第2次草津市緑の基本計画（当初計画）の策定以後行われていなかったため、今回の市民意識調査が約10年ぶりの意向把握となっています。今回の市民意識調査の結果を、今後のみどりのまちづくりに向けての課題として、新たに反映させることも重要であり、以下の流れに従って、本計画での課題の整理を行います。

図11 計画課題整理の流れ



## (2) 計画課題を検討する視点

第2次草津市みどりの基本計画（改定版）は、3年前の2018年3月に策定されているので、草津市のみどりの状況やみどりに関する計画を取り巻く周辺環境が大きく変化している訳ではありません。

ただ、この第3次計画は今後の12年間（目標年次：令和14年度）を見据えた計画なので、今後の社会情勢や市民意識の変化などにも的確に対応していける内容であることが大切です。

そのため、草津市のみどりに関する課題を考える際にも、第2次草津市みどりの基本計画（改定版）で取り上げている計画課題を基本として取り入れたうえで、今後のみどりのまちづくりをすすめるために必要な新たな視点も加えて検討する必要があります。

新たに検討する視点は以下の7点です。

### ①緑化および「ガーデンシティくさつ」の推進

第2次計画に記載されており、引き続き本計画を検討する上で重視すべき視点であり、まちの健幸づくりにつながる「ガーデンシティくさつ」の実現に向けた緑化推進という視点から課題を検討します。

### ②都市公園の整備と活用

草津川跡地公園などの都市公園の整備について、整備と活用の視点から課題を検討します。

### ③自然環境・生物多様性への配慮

上位関連計画では、自然環境における生物多様性の国内の現状として、生物種の絶滅や生息・生育地域の縮小をはじめとして、生物多様性の危機が指摘されています。第3次環境基本計画でも、「生物多様性の保全と活用」が施策の一つとして取り上げられており、本計画でも積極的に取り上げる方向で課題を検討します。

### ④公園などの持続可能な維持管理

今後の少子高齢化社会の到来などを見据え、現状の地域との協働の維持管理を含めた持続可能な公園の管理のあり方という視点から課題を検討します。

### ⑤都市計画公園および児童遊園などの見直し

公園などの持続可能な維持管理や生物多様性の観点、公園に求められる役割の変化、公園機能の適正配置なども踏まえた、都市計画公園や児童遊園などの整備のあり方という視点で課題を検討します。

## ⑥都市公園などにおける市民ニーズへの対応

都市公園などに対する多様なニーズに応えられる都市公園の魅力向上や、持続可能な維持管理の確保などに向けて、民間活力を活かした都市公園整備・活用を実現するため、Park-PFI や立体都市公園制度の導入、公園施設の建ぺい率のあり方などを検証するという視点から課題を検討します。

## ⑦協働のまちづくり

第2次計画における各分野の施策には、市民との協働が必要な事業が位置付けられていますが、本計画では、さらに協働を強く意識した課題として検討します。

## (3) 市民意識調査の結果から導かれるみどりの課題

市民意識調査の結果から、草津市のみどりについて整理した問題点や課題は、以下の7点になります。

### ① みどりの量について

市全体のみどりの量については、「多くなった」、「やや多くなった」と感じる人が約17%である一方、「少なくなった」、「やや少なくなった」と感じる人は半数近く占めていることから、市街地を中心にみどりを保全する方が必要です。(P.23～24 参照)

### ② ガーデンシティくさつについて

ガーデンシティくさつの施策は、多くの市民の間に浸透しているとは言えません。草津市のみどりの未来に向けて、「ガーデンシティくさつ」を広くアピールすることが必要です。(P.25 参照)

### ③ 市内の大規模公園について

よく利用されている大規模公園については、利用者の評価は比較的高いと言えますが、それぞれの公園の特徴・特性に応じて、市民の希望に応えられる整備、運営により、さらに魅力を高める努力が必要です。(P.26～29 参照)

### ④ 身近な小規模な公園について

遊具などの施設や設備など身近な小規模な公園の「質」に対する満足度が比較的低いことから、今後の少子高齢化を見据えて、身近な小規模な公園の満足度を高めるためのあり方の検討とその実現に向けた取組が必要です。(P.30～32 参照)

## ⑤ みどりに関する市民活動について

市内の各所で、みどりのまちづくりに取り組む市民活動が行われていますが、比較的認知度が低い状況です。一方で、市民活動に興味・関心を持つ方は過半数を占めることから、誰もが身近なみどりの市民活動に参加できるような、情報提供やきっかけづくりが必要です。(P.33 参照)

## ⑥ 個人の緑化活動について

自宅のベランダや玄関先などで花や植木を飾るような活動は、ほぼ半数の市民が取り組んでいます。公園での花植えなど、外に出て行っての活動はあまり行われていません。市民活動への参加と同様の課題ですが、気軽に外に出ての共同作業などに参加しやすくなるような方策が必要です。(P.33～35 参照)

## ⑦ その他留意すべきこと

回答者の年代、職業、居住年数などの属性によって、あるいは公園をよく利用するかしないか、みどりの市民活動への参加意欲の違いによって、みどりの満足度・評価や何を求めているかの傾向が異なるケースがみられます。施策の選定やすすめ方などにおいて、どのような人を対象に考えるのか、をきめ細かく検討することが求められます。また、自由回答で得られた多くの具体的な意見に配慮した施策の検討が求められます。(P.23～35 参照)



## (4) みどりに関する課題の整理

計画課題を検討する視点、市民意識調査の結果から導かれるみどりの課題を踏まえて、この計画で取り上げる計画課題として、以下の7項目を設定します。

### 【足りないみどりをつくり出すために】

- ① 既にある公園や児童遊園などを有効に活用しながら、身近なみどりを確保・再整備し、適切に維持管理すること
- ② 公園整備をすすめるなど、市内にみどりの拠点をつくり、潤いのある都市景観を生み出すこと

### 【みどりを豊かに育て、つかうために】

- ③ 行政・市民などの協働によるみどりのまちづくりをすすめること
- ④ 市民自らがみどりを生み出す行動をとり、公園・緑地などの楽しい使い方、みどりへの接し方を考え、実践すること
- ⑤ 公園の維持管理や運営を担い、ガーデニングを広めるような組織を、市民・企業・行政が一体となってつくり、育てること

### 【そこにあるみどりをまもるために】

- ⑥ 草津市の自然の骨格となる水とみどりを保全し、美しい自然景観をまもること
- ⑦ 琵琶湖や緑地、農地を含む多様な自然環境、生きものの生息環境の保全に向けて、みどりの量・質および利用価値を保全すること